

## ■2年目始動！「地域力再生プロジェクト」

6月13日(日)、昨年度に引き続き雲仙Eキャンレッジプログラムの一環として、雲仙市をフィールドとした「地域力再生プロジェクト」が始まりました。第1回目は、同市小浜町富津の棚田で稲の手植えを実施。地元の地域団体「山彦の会」の方々と総勢約15名で作業を進めていきました。あいにくの小雨模様となりましたが、植え付けを終えた後は昼食を囲んでの懇談や、同市小田山地区の木指棚田の視察など、学生にとって新鮮な体験となったようです。



第2回目は、7月24日(土)に田んぼの下草取りや金浜川の生物調査などをおこなう予定です。多くの学生の参加をお待ちしています。

## ■「博物館の可能性」探る講演会開催



6月11日(金)、環境科学部環境政策研究会主催・本センター他が共催の講演会を開催しました。首都大学東京大学院都市環境科学研究科の井出明准教授を招き、新時代のコミュニケーションセンターとしての役割を中心に、がまだすドームをはじめ、洞爺湖や三宅島、神戸など各地の事例をあげながらお話いただきました。

環境政策研究会は、文化環境研究会とともに環境科学部にある自主的な学びの場です。センターとしては、共催の形でこのような機会の充実に努めていきたいと考えています。

## ■センター年報『地域環境研究』第2号刊行

2009年度のセンター活動の記録と、地域活動に関する論文・報告6本を掲載した年報(全107ページ、400部)を刊行しました。

年報は、季刊の本ニュースレターとともにセンターの定期刊行物です。送付希望の方は、センターまでご一報ください。また、センターのホームページからダウンロードすることもできます。

論文・報告は、温泉地の湯けむり景観、小学校でのごみ分別授業、食農教育などをテーマとした成果が寄せられました。ぜひ、多くの方に手にしていただけましたら幸いです。

環境教育研究マネジメントセンター年報 地域環境研究	
第2号	
2010年3月	
センターの概要	
1. センターの役割	1
2. 組織体制	2
3. 活動内容	3
2009年度の活動実績	
1. 地域活動が、地域で実践された事例	5
2. 環境教育実践の事例(1) 環境教育実践の事例(1)	11
3. 環境教育実践の事例(2) 環境教育実践の事例(2)	11
4. 環境教育実践の事例(3) 環境教育実践の事例(3)	12
5. 環境教育実践の事例(4) 環境教育実践の事例(4)	12
地域活動に関する実践報告・論文	
1. 環境教育実践の事例(1) 環境教育実践の事例(1)	13
2. 環境教育実践の事例(2) 環境教育実践の事例(2)	13
3. 環境教育実践の事例(3) 環境教育実践の事例(3)	13
4. 環境教育実践の事例(4) 環境教育実践の事例(4)	13
5. 環境教育実践の事例(5) 環境教育実践の事例(5)	13
6. 環境教育実践の事例(6) 環境教育実践の事例(6)	13
資料	
1. 環境教育実践の事例(1) 環境教育実践の事例(1)	14
2. 環境教育実践の事例(2) 環境教育実践の事例(2)	14
3. 環境教育実践の事例(3) 環境教育実践の事例(3)	14
4. 環境教育実践の事例(4) 環境教育実践の事例(4)	14
環境教育研究マネジメントセンター 長崎大学環境科学部	

- 2年目始動！「地域力再生プロジェクト」……………1
- 「博物館の可能性」探る講演会開催……………1
- センター年報『地域環境研究』第2号刊行……………1
- 雪浦ウィークで学部OB訪問……………2

- 連載 インタビュー 環境科学部プロフェッショナル①・3  
長崎まちづくり探検⑤ 海きらら……………4
- 書架 『東アジアの大都市における環境政策』……………4

## ■雪浦ウィークで学部OB訪問 —桑迫賢太郎さんインタビュー—

5月1日(土)~4日(火)、西海市大瀬戸町雪浦で「雪浦ウィーク」が開催された。雪浦ウィークとは、長崎さるくよりも早い時期から始まった散策型イベントで、期間中は雪浦の住民が自然に優しい食べ物や手作り雑貨の販売、創作品の展示をしたりしている。来訪者は、雪浦の豊かな自然に触れながら地元の人々と交流することができる。

この雪浦地区に、環境科学部卒業で私達の先輩にあたる桑迫賢太郎さん=右写真=が住んでいる。桑迫さんは大学を卒業してから自給自足の生活を送ることを決め、雪浦に住み始めたそうだ。



雪浦ウィーク期間中、桑迫さんの家は一般開放されており、気軽に訪ねることができる。細い坂道を上って伝統的な日本家屋の中に入ると、桑迫さんが描いた絵画や絵本などが並べられていた=左写真=。私は幸いにも、桑迫さんに詳しくお話を伺うことができた。

桑迫さんは学部在籍中に NGO のボランティアスタッフとしてカンボジアに出かけた。そこで電気やガスを使わずに薪やロウソクを使った生活を体験し、「これこそ究極のエコロジーだ。自分もこのような生活をし



たい」と考えるようになったという。

桑迫さんは、もともと雪浦にゆかりがあったわけではない。この地に暮らすきっかけになったのは、知人の紹介であったそうだ。移住して7年目に入り、さらなる自給自足を目指して米や野菜作りに挑戦している。

自宅ではさまざまな創作活動に取り組んでいる。今まで絵本の制作や作品展の開催を重ねており、来年の3月には長崎県美術館で個展を開く予定があるそうだ。桑迫さんの心温まる絵や平和を願う文章を、足を運んで実際に見てみてはどうだろうか。

(取材=3年 木下智美)



期間中、雪浦橋はこいのぼりで飾られる

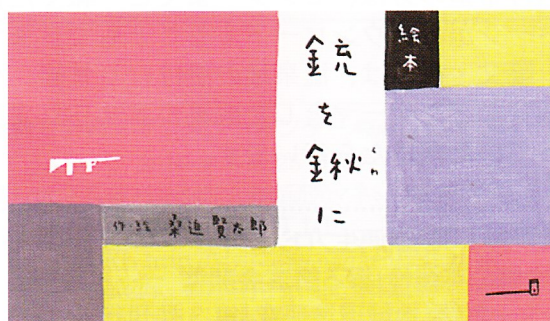
### 桑迫賢太郎個展「ひかりはこどもたちを」

期間：2011年3月1日(火)~3月6日(日)

場所：長崎県美術館「県民ギャラリー」

入場料：無料

平和や環境問題をテーマにした芸術表現に触れてみましょう！



桑迫さんの代表作・絵本『銃を鋏に』

## ■連載

学生が聞き手のインタビュー企画

環境科学部  
プロフェッショナル

### 第1回 河本 和明 先生

——研究は高揚するもの。そういうときが幸せですね。——

—大学時代、どんな勉強をされていましたか？

河本先生 「立教大学の理学部で物理を勉強していたのですが、社会的にはオゾンホールや地球温暖化が注目され始めた時期だったので、環境問題に興味を持つようになりました。昔から研究者になりたいと思っていたので、大学院では大気環境についての気象学を専攻しました。」

—大学時代、記憶に残るできごとがありますか？

河本先生 「4年生の時に理化学研究所に見学に行く機会があったのですが、そこで東大の院生と偶然知り合いになりました。私が『院試の問題が難しいです』って言ったら、その人は『それならいつでも聞きに来なよ』と答えてくれました。社交辞令だったのかもしれませんが、それから週に何度も訪ねて行って院試に臨んだ結果、合格できました。人との出会いや人脈を作ることって大事だなと思いましたね。」

—昔から研究者になりたかったとおっしゃっていましたが、それはどうしてですか？

河本先生 「幼稚園くらいの頃、キカイダーという特撮ヒーローもののテレビ番組に夢中になっていました。それに出てくる光明寺博士というロボット工学の先生を見て、研究者ってかっこいいと思ったのです。最初のきっかけはそういう思い込みでしたね。」

—大学院を卒業した後は何をされていましたか？

河本先生 「指導教員の勧めでNASA(アメリカ航空宇宙局)のポスドク<sup>注</sup>になって、人工衛星データから雲の性質を調べる研究に取り組みました。英会話の訓練を受けずに渡米したので、言葉には本当に苦労しましたね。」

—先生の今の研究について教えてください

河本先生 「今は、大気中の汚染物質が雨の降り方や雲の性質にどう影響するかについて研究しています。」

—最後に、学生に一言お願いします

河本先生 「すべてが経験なので、何事にも躊躇せずいろいろなことに挑戦してほしいですね。英語は早いうちから勉強しておいたほうがいいと思います。留学生と友達になったり、海外に気軽に行ったりするのもいいですね。」

—ありがとうございました

<sup>注</sup> ポスドクとは、ポストドクターの略称。博士号取得者が期限付きで研究に従事する職種をいう。



## センターからのお知らせ

### □ボランティアを募集しています□

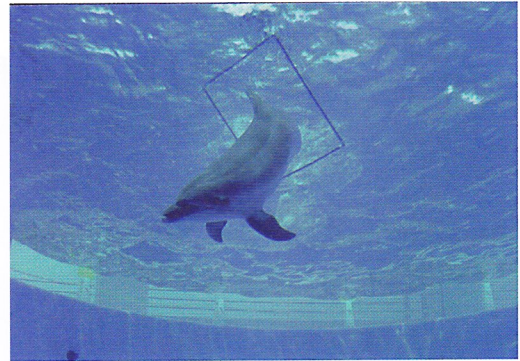
環境教育研究マネジメントセンターは、学生や地域の方など読者のみなさんの力を必要としています。このニューズレターの記事の企画・作成の補助や発送作業、学生みずからが企画しておこなう課外のフィールド活動などに興味のある方、まずはお気軽に深見までご連絡ください。

## 長崎まちエコ探検⑤ 海きらら水族館

長崎県第二の都市・佐世保市には、九十九島の玄関口となるリゾートパークである複合施設「西海パールシーリゾート」がある。ここでは遊覧船による九十九島めぐり、ヨットやシーカヤックでの海の散歩などを楽しめ、九十九島の体験基地になっている。それに加えて、飲食店・土産物店も立ち並び、人々の多様なニーズに対応している。

九十九島は、佐世保港の外側から北へ 25km にわたり島々が点在する海域のことで、島の密度は日本一といわれている。九十九(くじゅうく)とは数がたくさんあるという意味で使われる例え言葉で、実際の島の数は 208 ある。九十九島の海は、総延長 353km にわたる入り組んだ海岸線(そのうち 82%が自然海岸)と島に囲まれ、様々な生きものが生息している。

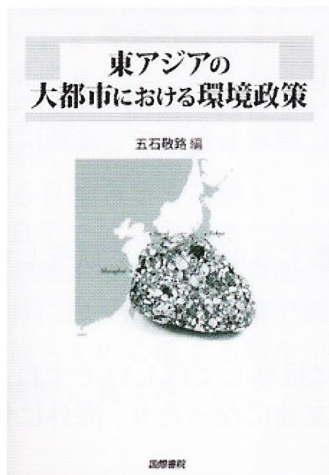
この九十九島の海を再現した水族館に、「西海国立公園 九十九島水族館 海きらら」がある。2009年7月18日に、「九十九島湾大水槽」「イルカ水槽」の新設や、ドームシアターを「クラゲシンフォニードーム」とするなどのリニューアルがなされて新たなスタートを切った。ここで、九十九島の海の世界を知ることができる。  
(取材=3年 伊藤かおり)



## ■書架

### 『東アジアの大都市における環境政策』

(五石敬路著、国際書院刊、2009年、¥3,990)



東京の地球温暖化対策、大阪方式とよばれる家電リサイクルの方法、上海のコミュニティ不在の資源ごみ回収など、都市政策のなかに環境問題はどのように位置づけられ、具体的な成果と課題を残してきたのかを知ることができる。

とくに興味深いのは、韓国ソウル市の清溪川(チョンゲチョン)の復元事業についての章である。李明博大統領がソウル市長時代に強力なリーダーシップのもと完成させたと報道されていたが、実際には「三角体制」とよばれる、市民団体や商業関係者、行政などの議論の蓄積とその共有にあることを克明に記している。環境政策の行きつくところに完璧な答えが1つあるものではなく、その遂行のプロセスにどれだけ充実した時間がかけられたかが大切なことを教えてくれるお薦めの一冊である。

### □■編集後記■□

第7号をお届けします。今号から、センターの学生ボランティア2名が加わり、新たな紙面作りなどに加わってくれました。限られたページでより多くの情報をお届けできるよう、さらに心がけていきたいと思ひます。／

読者の皆さまから、このような本を紹介してほしいといった声や、連載で紹介する場所の推薦やご意見など、お気軽にお寄せ下さい。／ニューズレター第8号は、9月25日付で発行予定です。  
(深見)

環境教育研究マネジメントセンター News Letter (第7号)

2010年6月25日発行

長崎大学環境科学部環境教育研究マネジメントセンター  
〒852-8521 長崎市文教町1-14

URL <http://www.env.nagasaki-u.ac.jp/>

Tel&Fax 095-819-2720(深見聡研究室気付)

E-mail [fukami@nagasaki-u.ac.jp](mailto:fukami@nagasaki-u.ac.jp)

(編集長：深見 聡)

印刷：九州印刷(株)